

「世界水準の観光地の形成」について

国土交通省 北海道局

平成29年11月

○北海道の開発は、北海道の豊富な資源や広大な国土を利用し、我が国全体の安定と発展に寄与することを目的としている。
○8期目となる現行の北海道総合開発計画は平成28年3月に閣議決定。計画期間は2016(平成28)～2025(37)年度の10年間。

計画のキャッチフレーズ

「**世界の北海道**」⇒世界的なブランド力・価値創造力で世界の人々に評価される、「**世界水準の価値創造空間**」の形成を目指します。

価値創造の例

新製品・新産業を生み出し、地域に稼ぎを生み出す

社会が直面する課題に対し、新たな解決策を提案・実行する

新たなライフスタイルを実践し、人々の生き方・暮らし方を変える

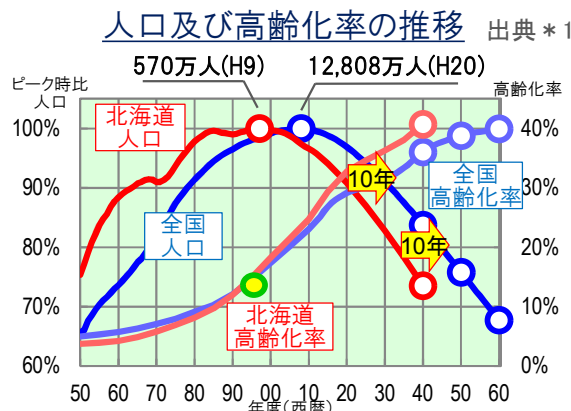
計画のポイント

【北海道の強み】

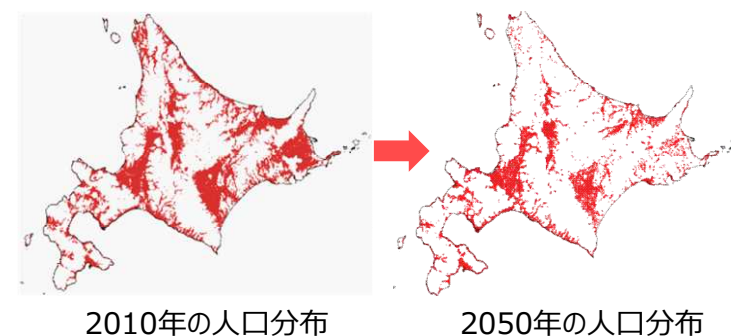
- ・北海道は我が国の食料供給基地
- ・食の輸出、外国人観光客も急増

【北海道の課題】

- ・北海道の人口減少は全国よりも10年先に進展
- ・地方部では無人化が急速に進行
- ・本州等とは距離感の異なる広域分散型社会



人口分布の推計 出典*2



来たるべき10年は、「生産空間のサバイバル」、「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間

【これからの北海道の戦略】

「食」「観光」が
戦略的産業

- ～人口減少時代にあっても、
- ①北海道には世界と競争し得るポテンシャル
 - ②アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う「生産空間」^{*3}
を支え「世界の北海道」を目指す

重点的に取り組む事項

「観光先進国」実現をリードする**世界水準の観光地の形成**

食料供給基地としての持続的発展

食と観光を担う「生産空間」を支える取組

北海道型地域構造の保持・形成

地域づくり人材の発掘・育成

強靱で持続可能な国土づくり

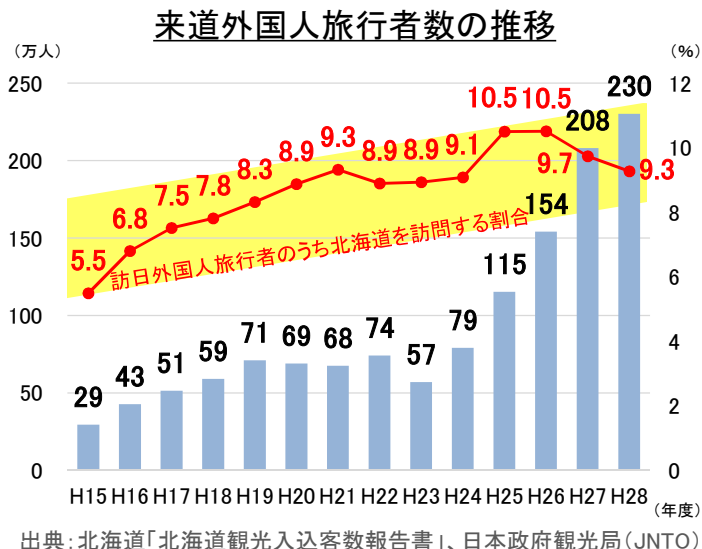
*1 出典:総務省「国勢調査」・「人口推計」、国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」・「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」を基に国土交通省北海道局作成

*2 出典:総務省「平成22年度国勢調査」、国土交通省「国土数値情報(土地利用3次メッシュ)第2.3版」・「国土数値情報(将来推計人口メッシュ(国政局推計))」を基に国土交通省北海道局作成

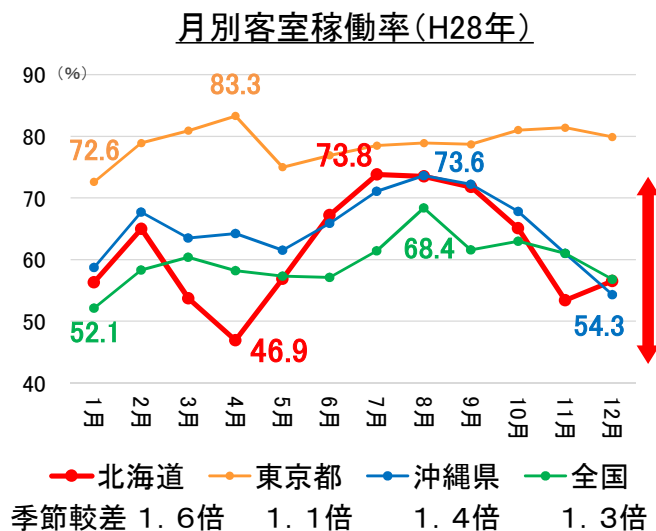
*3 生産空間:ここでは、主として農業・漁業に係る生産の場(特に市街地ではない領域)を指す。生産空間は、生産のみならず、観光その他の多面的・公益的機能を提供している。

北海道観光の現状

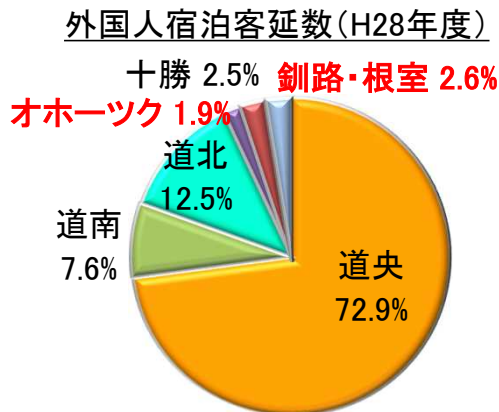
外国人旅行者は近年急増



客室稼働率の季節変動が大

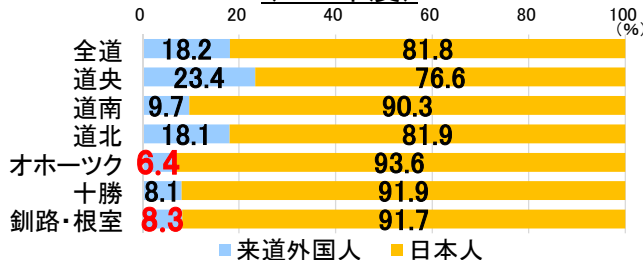


外国人旅行者の訪問先は道央圏に集中

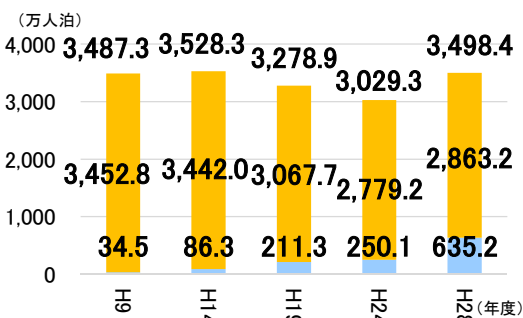


オホーツク、釧路・根室は来道外国人の割合が低い

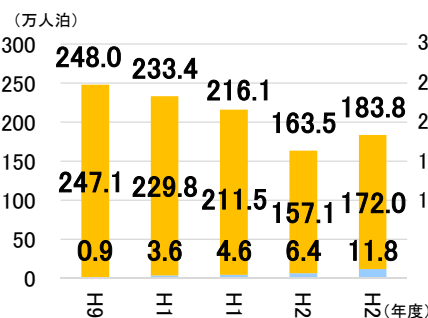
宿泊客延数の来道外国人、日本人割合 (H28年度)



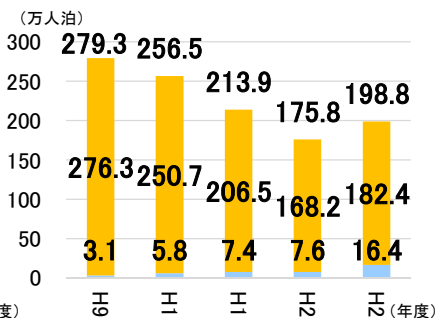
全道宿泊客延数の推移



オホーツク宿泊客延数の推移



釧路・根室宿泊客延数の推移



課題

旅行者を呼び込むための

地方部・端境期 (特に春秋) の需要創出

- ◆ 観光資源の創出・磨き上げによる、地方部・端境期の魅力アップが必要
- ◆ 良好な景観形成等により移動も楽しむことができる広域的な観光周遊ルートの形成が必要
- ◆ 季節を問わないMICE・スポーツ合宿誘致も重要

旅行スタイルの変化 (団体→個人) に応じた

観光メニューの多様化

- ◆ 「北海道観光は高い・長い」というイメージからの脱却が必要
- ◆ 雄大・食・自然などの道内一括りのイメージを脱却し、北海道の多様な魅力創出・発信が必要
- ◆ 利用交通機関の変化 (貸切バス→鉄道・レンタカー) に対応した観光ルート構築が必要
- ◆ 長期滞在する富裕層への対応も必要

急増する旅行者の受入を可能とする

ゲートウェイ機能の強化・観光地への交通アクセスの円滑化

- ◆ 道内空港・港湾の受入環境の改善が必要
- ◆ 観光地間の交通容量・機能改善が必要

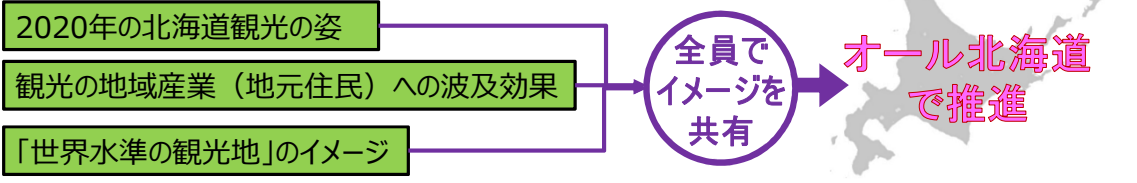
スムーズに観光を楽しむための

ストレスフリーな移動・活動を可能とする環境整備

- ◆ 無料公衆無線LAN環境が不足
- ◆ 地域・災害情報の発信、多言語対応が不十分
- ◆ 誰もが楽しめる旅行 (ユニバーサルツーリズム) への対応も必要

- 北海道が「世界水準の観光地」となって我が国の観光先進国実現をリードするためには、観光業に携わる者だけでなく、**オール北海道**で取り組んでいくことが重要。
- そのため、**目指すべき「世界水準の観光地」のイメージ**を北海道民の間で共有するとともに、「世界水準の観光地」となることの意味・重要性の理解を深めていくことが重要。

世界水準の観光地の形成に向けて



2020年の北海道観光の姿

◎ **世界”最高”水準の観光地を目指し、我が国の「観光先進国」実現をリード**

- 訪日外国人旅行者の北海道割合をアップ
- 日本人旅行者も増加を目指す

⇒ **全道・通年・フル稼働**

数値目標

① 来道外国人旅行者数

平成27年 190万人（基準値） ➡ <目標年>平成32年 **500万人**

② 外国人宿泊客延数の地方部割合（地域平準）

平成27年 27%（基準値） ➡ <目標年>平成32年 **36%**

③ 客室稼働率の季節較差（季節平準）

平成27年 1.7倍（基準値） ➡ <目標年>平成32年 **1.4倍**

「観光先進国」実現に向けた国の目標（抜粋）

『明日の日本を支える観光ビジョン』

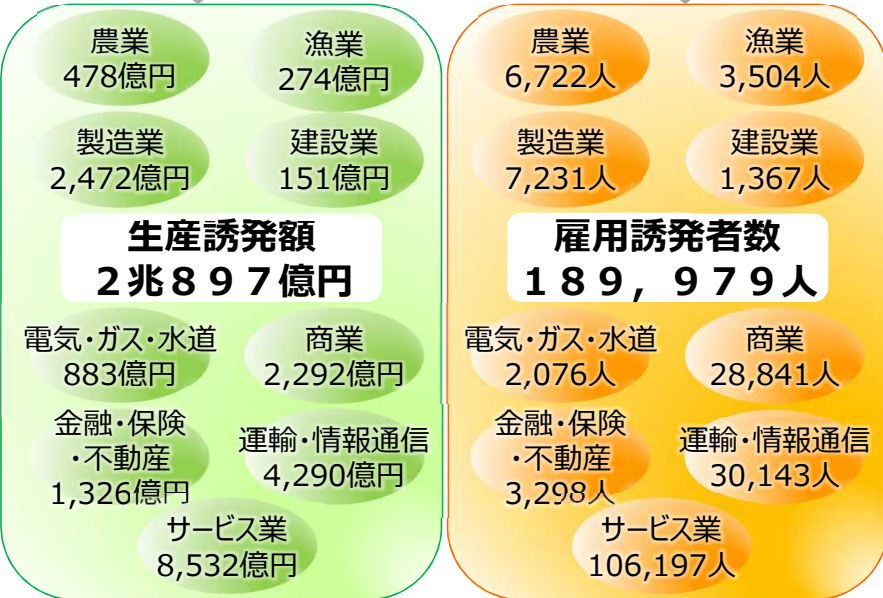
訪日外国人旅行者数 <2020年> **4,000万人** (2015年の約2倍) <2030年> **6,000万人** (2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額 <2020年> **8兆円** (2015年の2倍超) <2030年> **15兆円** (2015年の4倍超)

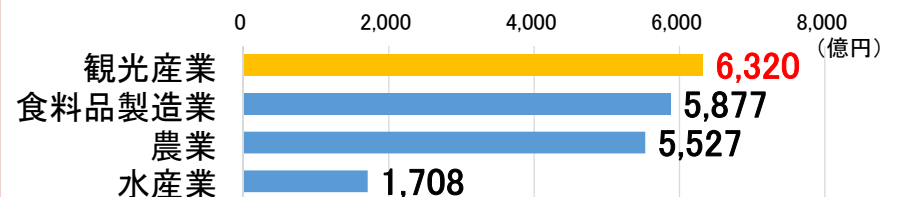
観光の地域産業（地元住民）への波及効果

観光消費が北海道にもたらす経済波及効果 *1

観光消費額
1兆4,298億円
(日本人・外国人計)



道内観光GDPの他産業との比較 *2



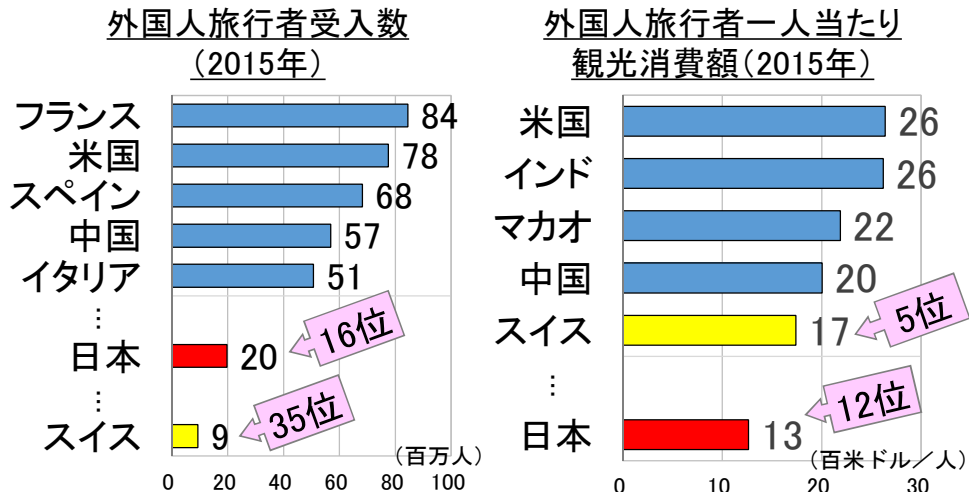
出典：北海道経済部観光局「第6回北海道観光産業経済効果調査（平成29年5月）」を基に
国土交通省北海道局作成

*1：主な産業について記載しており、合計は一致しない。

*2：食料品製造業、農業、水産業は平成26年度の道内総生産。

「世界水準の観光地」のイメージ

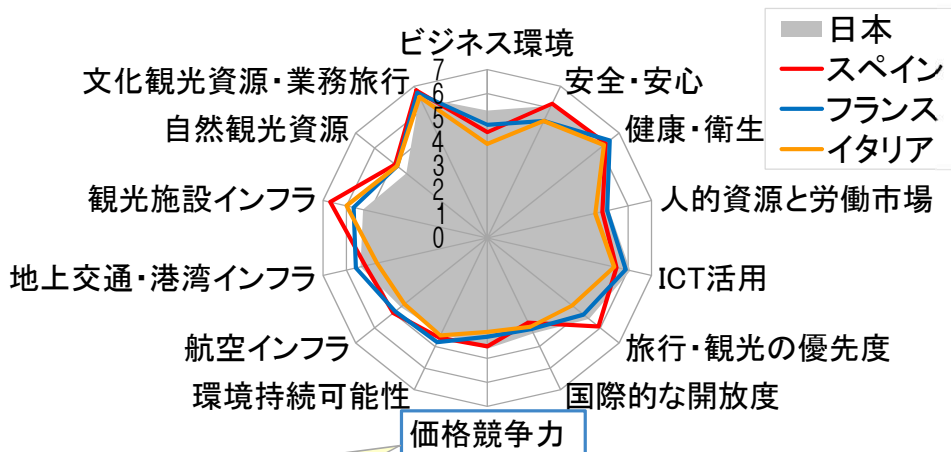
▶ 来道する外国人の旅行者数や消費総額を増やすことも重要だが、一人当たりの消費額を高める観点も必要。



出典: UNWTO「Tourism Highlights」、総務省「世界の統計2016」を基に国土交通省北海道局作成

▶ スペイン、フランス、イタリアの価格競争力の順位は低い。「高くても行きたい」と思われる観光地を目指すことが必要。

旅行・観光競争力指数比較



136か国・地域中
 日本 94位 スペイン 98位
 フランス 118位 イタリア 124位

出典: World Economic Forum「The Travel & Tourism Competitiveness Report 2017」を基に国土交通省北海道局作成

▶ 世界から選ばれる都市には「世界水準の観光地」の要素があると考えられ、そこでしか得られない「特別な体験」がキーワード。

- 北米のリーダー層が主な読者で、世界的にも強い影響力を持つと言われる「トラベル・アンド・レジャー」誌の「50 Best Places to Travel in 2017」に、アクティビティの宝庫であるクイーンズタウン(ニュージーランド)が選ばれている。

ニュージーランド南島にあるクイーンズタウンは、ワカティプ湖のほとりに広がり、山々に囲まれた美しいリゾート地。年間を通してラフティング、トレッキング、乗馬、ゴルフ、スカイダイビング、ジェットボートなど、様々なアウトドアスポーツが体験できる。

出典: Travel + Leisure「50 Best Places to Travel in 2017」を基に国土交通省北海道局作成

世界水準の観光地とは

そこでしか得られない「特別な体験」が地域にあることに気づき、それを観光資源として生かしてビジネスへと高め、地域が一体となって支えている地域。

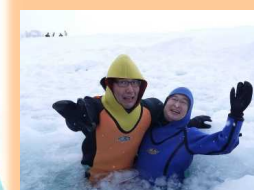
北海道でしか得られない「特別な体験」(例)



雲海ツアー(津別峠)



バードウォッチング(希少な野生生物)



流氷ウォーク



地元食材を使った料理(エゾシカ肉) etc.

【旅行者】

1. 世界から憧れられる。
2. 多くの(相応の)観光客が訪れ、お金を使う。
3. 訪れた観光客が満足し、また訪れたいと思う。

【観光に関係する者】

4. 商品・サービスが揃い、ビジネスとして成立している。

【観光に直接関係しない者】

5. 地元住民が観光の重要性を理解している。

6. 地域における運営体制が確立している。

地方部・端境期(特に春秋)の需要創出、観光メニューの多様化

外国人ドライブ観光の推進

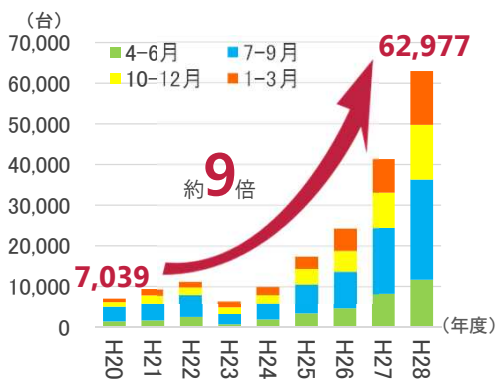
北海道ドライブまるわかりハンドブック



外国人旅行者が安全・安心・快適にドライブ観光を楽しむためのポイントを整理。

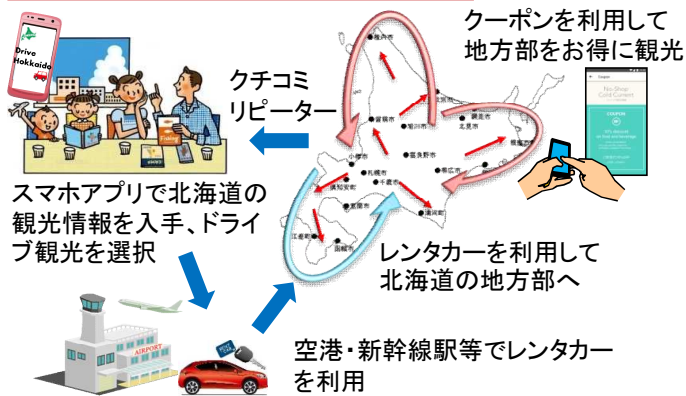
・8言語で作成(日・英・繁・簡・韓・タイ・仏・独)

外国人レンタカー貸渡台数の推移



出典：北海道地区レンタカー協会連合会調べ

北海道ドライブ観光促進社会実験



【社会実験概要】

H28年10～11月 ひがし北海道
H29年9～11月 札幌市を除く全道

・外国人観光客を対象に、地方部の観光資源や割引等の特典を提供する施設の情報等を効果的に発信し、端境期の秋に、地方部へ誘導する実験を実施。

ゲートウェイ機能の強化・観光地への交通アクセスの円滑化

新千歳空港の機能強化

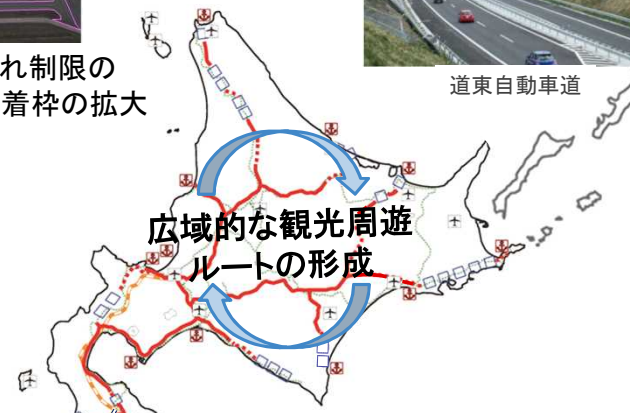


- ・国際線航空便の乗り入れ制限の緩和、1時間当たりの発着枠の拡大
- ・南側誘導路の新設
- ・エプロン拡張
- ・ターミナルビル拡張

高規格幹線道路の整備



道東自動車道



クルーズ船の受入環境の改善

- ・クルーズ船の大型化への対応(係船柱及び防舷材等の改良)



室蘭港への寄港状況 (ばしふいつくびいなす、飛鳥II)



北海道新幹線 (写真提供:JR北海道)

広域観光周遊ルート (国土交通大臣認定)

- ・「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」
- ・「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」

サイクルツーリズムの推進

自転車利用環境の創出

世界有数のサイクリング環境を構築し、サイクルツーリズムを推進するため、多様な関係者と連携しながら、安全で快適な環境を創出。



河川管理用道路等の活用 車道への通行位置明示

地域や関係機関との連携による観光振興の取組

地域活動団体・取組と連携

- ・シーニックバイウェイ北海道 「わが村は美しくー北海道」運動
- ・北海道マリンビジョン21 ・みなとオアシス
- ・北海道価値創造パートナーシップ活動 などの活動団体・取組との連携。

ストレスフリーな移動・活動を可能とする環境整備

外国人旅行者に優しい道路情報

- ・「北海道地区道路情報」英語版 国道・道道の通行止め情報をリアルタイム発信
- ・道路情報板での英語表示
- ・パンフレットの多言語化
 - エゾシカ衝突事故マップ
 - 冬道ドライブの心構え



国道38号狩勝峠 路面凍結走行注意の英語表示 「Caution Icy Road 38 Karikachi Pass」